

2023 年度国際交流事業
—中国：北京師範大学珠海分校校区および京師南奥実験学校訪問—
選択科目：グローバル教育実践演習
酒井 悟

1 講義について

本科目は東アジアの学校教育を観察し、その特色を日本と比較することで、共通点と相違点を理解することを目指す。そのために、①教育研究、②学校での授業実践、③地域教育施設見学の3つの交流活動を通して、グローバル社会の教育課題を理解する方法論を実践的に獲得することをねらいとした2単位の選択科目である。

究発表会

11月13日(月)

・京師南奥実験学校視察

11月14日(火)

・新潟大学教職院生の授業実践と交流会

11月15日(水)

・移動

2 交流事業計画

今回の中国との交流事業は、2019年以來となる。今年度は、夏頃より日程調整をしながら、以下の計画の基、北京師範大学珠海分校校区と京師南奥実験学校を訪問した。

(1)授業

選択科目(集中 後期開講)
グローバル教育実践演習

(2)参加者

大学教員	10名
教職大学院生	7名
教職大学院卒院生	1名
他院生家族	8名
計	26名参加

(3)日程

11月11日(土)

・北京師範大学珠海分校校区打ち合わせと交流会

11月12日(日)

・新潟大学教職大学院生と北京師範大学珠海分校校区院生との課題研

3 活動

(1) 新潟大学教職大学院生と北京師範大学珠海分校校区院生との課題研究発表会

ア 期日

2023年5月11月12日(日)

イ 発表者

新潟大学教職大学院生7名

北京師範大学珠海分校校区大学院生7名

ウ 会場

珠海市第十六中学校



エ 発表内容

発表会では、両大学院生が2グループに分かれて、それぞれが自分の追究している

課題研究について質疑を交えて一人 25 分で発表を行った。

グループ A

時間	報告者	報告テーマ
9:00-9:20	黄謹： 中国珠海市第十六中学校	未来に向けて、ボーダレスな学習共同体を作る
9:20-9:40	宮本裕介： 日本新潟市鏡淵小学校	「チーム学校」を目指しミドルリーダーとして何が出来るか
9:40-10:00	馬懿宁： 中国中山市中山記念中学校	高校におけるプロジェクトベース学習に基づいた教科横断型教育に関する研究
10:00-10:20	倉田彩子： 日本新潟市西蒲高等特別支援学校	日本のハンディキャップをもつ子ども達が自分を理解して表出することの意義
10:20-10:40	范勝明： 中国広東省元中附属学校	区域文化資源在历史教学中的运用
10:40-11:00	斎藤崇人： 日本新潟県三川小学校	コミュニティ・スクールの有効活用
11:00-11:20	種麗清： 中国珠海市第十六中学	学ぶことの「意義感」を見つけるー核心素養を定着するためのプロジェクト学習ー

グループ B

時間	報告者	報告テーマ
9:00-9:20	木島靖人： 日本新潟市東区中学	子どもが見通しを持って主体的に取り組む姿を具現化するための授業デザインと手立て
9:20-9:40	陳尚宝： 中国深圳市宝安区教育科学研究院	3SEモデルによるPBLの設計・実施及び評価
9:40-10:00	大澤一樹： 日本新潟県松浜小学校	教員が自ら考えチームで実行する発達支持的生徒指導の取組
10:00-10:20	方彦： 中国珠海市鳳凰中学	本来のあるべき姿に取り戻すー中学校化学における実践事例ー
10:20-10:40	古塩 豪： 日本新潟県見附中学	学校と地域との連携を促進する学校運営協議会の体制づくり
10:40-11:00	李花： 中国東莞理工学院附属幼稚園	幼稚園におけるゲームデザインと実践の考察
11:00-11:20	熊田さくら： 新潟大学大学院院生	特別支援学校における伸びる楽しさ、集う楽しさに着目した体育実践

大学院生の他に、会場となった珠海市第十六中学校教員も参加しての会となった。新潟大学教職大学院生は、自身が課題研究で取り組んでいる内容について発表した。北京師範大学珠海分校校区院生からは、プロジェクト学習モデル、探究型のディープラーニング実践、幼児期における良質な「遊び」のデザイン等の発表があった。現在の教育課題や取り組んでいる事柄で、両国に共通点が多いことを知る機会となった。

会場となった珠海市第十六中学校の施設設備を見る機会ともなった。各教室には、ICT 機器が完備されており、授業で頻繁に活用されていることが分かった。

発表会の後、昼食を摂りながら情報交換の時間があり、両国における今日的教育課題や人材育成等についても話題となった。



(2) 京師南奥実験学校視察

ア 期日

2023 年 11 月 13 日（月）

イ 内容

京師南奥実験学校視察

鄭鉄軍校長先生の説明を受けながら、授業の様子や環境施設の視察を行った。「子ども一人一人のための教育」「調和のとれた発達」「人格形成」「優れた教育」の経営理念の基で教育実践されていること、9 年間のカリキュラムがあること、学習形態や教育環境、保護者との連携の仕方等の説明を受けた。



(3)京師南奥実験学校での授業

ア 期日

2023年11月14日(火)

イ 内容

京師南奥実験学校で授業参観と、新潟大学教職大学院生による飛び込み授業を行った。

熊田さくら(M2)	6年体育	ボッチャ
倉田彩子(M2)	2年生活	日本の遊び
大澤一樹(M1)	6年体育	剣道
木島靖人(M1)	8年技術	発明
斎藤崇人(M1)	6年理科	火山の運動
古塩 豪(M1)	6年体育	フラフープ
宮本裕介(M1)	(古塩とT・T)	



(4)交流会

北京師範大学珠海分校校区でも京師南奥実験学校でも、交流会がそれぞれ開催された。それぞれ60名を超える参加者となり、大変に盛り上がった。この懇親会では、授業のことや教育環境、人材育成といった情報交換の場となっていた。

4 評価および今回の講義の特色

(1)教育観の変容

帰国後、訪問による学びの整理として長編と短編の記録動画を作成し、その記録動画の編集内容の確認により単位認定とした。

また、この動画は、「社会のグローバル化と学校教師の課題」(後期第5領域必修授業)の授業で視聴した。その際、訪中した院生より一人15分程度で感想発表を行った。他国の教育事情を目の当たりにしたことで、共通の教育課題や取組に気付いたことに加え、日本との違いも具体的に知る機会となった。それまで授業で断片的にインプットしていた知識が、中国の教育の実際と関連付いた様子だった。参加院生からは、ばらばらだった知識と知識とがつながり、一層理解が深まり充実感が得られたという感想が聞かれた。

国や言葉は違っても、「教育」という共通の目的に向かっての充実した交流の場となった。課題研究の発表会や飛び込み授業の他にも、珠海市や広州市の散策、南越王博物館見学をすることができた。これらの活動を通して、教育観が変容する機会となった。

(2)リモート活用

昨年度の韓国訪問と同様に、今回の訪中でもリモートを活用して、日本にも交流活動の様子を中継した。具体的には、北京師範大学珠海分校校区院生との課題研究発表会と京師南奥実験学校での飛び込み授業である。M1・M2の院生や教職大学院教員が参観した。質疑のある場面では、日本からも質問が出るなど、交流をしていた。訪中することは難しいが、他国の教育に関心のある院生もいる。このリモートを活用することで、より多くの院生の参加できる。このことにより、院生のグローバル化に向けた教育課題について、一層関心が高まることが期待できる。